

エアーマットレスの使用上の注意

・ 安心しきってうっかり使っていませんか？ ・

エアーマットレスを普段使っていて、いくつかの疑問を持っていました。その点をいろいろと文献を調べたり実験したりして調べた結果をお知らせします。

疑問点としては、「横シーツの併用は問題無いか?」「ピンと張ったシーツは良くないのではないか?」「重ねおむつは問題無いか?」「エアークの設定法は器具の体重設定値でいいのか?」「エアーマットレスのメンテナンスはしなくていいのか?」などです。

まず、横シーツについて実験をしてみると、高機能エアーマットレスを使用中は、横シーツを使うと低機能エアーマットレス程度の除圧効果しかなくなることがわかりました。しかし、低機能エアーマットレスや、マキシフロートのようなフォームマットレスでは、横シーツを使うと確かに除圧効果は低くなるものの、その影響は少ないことがわかりました。したがって、高機能エアーマットレスを使っている褥創高危険群や治療群では、横シーツの使用は極力避けることが薦められました。

さて、おむつを何枚も重ねて使用した場合と、1～2枚しか使用しない場合を比較してみると、高機能エアーマットレスであっても低機能のエアーマットレスであっても除圧効果にはほとんど影響はありませんでした。それどころか通常マットレスではむしろおむつを何枚も用いることで除圧効果らしきものが期待できました。

以上より、便や尿失禁のある褥創患者さんでは、横シーツを使うのではなくおむつを何枚か使うことで対応したほうが良いという結論になりました。

次にシーツをピンと張ってベッドメイキングをすると、接触圧が高くなることがわかりました。しかし、この時患者さんの周囲をグッと押すと接触圧が一気に低下することがわかりました。ベッドメイキング後に患者さんをベッドに移したあとは、患者さんの周囲を押して一周回ることが薦められます。

圧設定について、エアークが抜けてしまったり、圧を最大にしたまま忘れた場合の接触圧を測定してみると、いずれの場合もエアーマットレスの除圧効果が低下してしまいます。特にエアーク漏れの場合は極端に接触圧が上昇していました。エアーク調整が適切でない場合は、高機能型ではそれほど危険な接触圧にはならなかったのですが、低機能型では適正エアークの幅がかなり狭いことがわかりました。薄いエアーマットレスではエアークの調節はより敏感になる必要があります。

エアークの設定は、機械の体重設定に合わせることでだいたい問題無いことが示さ

れました。

ところで、68 床の病院に 19 台のエアーマットレスがあり、これらエアーマットレスの作動状態を調査しました。驚くことに 3 台（15%）で作動不良がありました。2 台に圧調節機能の機械不良があり、1 台にエアーマットレスに繋がるチューブの折れがみられました。この病院では頻繁にエアーマットレスのチェックをしているにもかかわらずこれだけの不良が見つかりました。24 時間 365 日稼働している精密機械です。普通は 5 年くらいでオーバーホールをするのが当たり前なのでしょう。しかるに 10 年以上何もせずに使い続けている病院が多いのではないのでしょうか。昨年褥創対策未実施減算が始め、エアーマットレスが大量に購入されましたが、これから 5 年 10 年先のエアーマットレスの使われ方がどうなるのか今から心配です。

それでは講義の説明はこれで終わります。今回は絵は無く文字ばかりになりました。